

I K G の

旅館経営再生塾

第六回

分社化で

旅館カンパニー

(執筆 飯島賢二)

である。
今回の提案は、これら不採算部門を総て本体から分離させ、それぞれ個々に独立採算を目指し、いわゆる分社化による企業再編を考えることである。

旅館の大きな施設の中で、遊んでいるスペースがどのくらいあるか、一度検討して頂きたい。遊んでいるとは、稼がないという意味。稼がないとは、時間軸に沿って収益が発生しないという意味である。

収益が発生しないスペースでも、借入返済等の投資コスト、減価償却費、機会損失等、コストは確実に毎時間発生している。この無駄な、もったいないロスこそ、年間巨額な損失額になること、ご存知だろうか。こらはまるで、経費の垂れ流し状態、こんな余裕は無い筈

稼がないレストランスペース、稼動の少ないコンベンションホール、ラームンコーナーやクラブも含め、それぞれを起業化させる。場合によってはプロに委託する。極端に、営業も営業会社に任せしてしまう。
担当社長は、これは死活問題。昼間のんきに空かせていたレストラン、今後はそうはいかず、必死で一般外来客向けのランチデイナーを始める。同じスペースにも拘らず、かなりの収益確保が予測される。本体は固定収入として、売上歩合か家賃で安定化を図る。
こんな「旅館カンパニー制」、いかがなものか。